

国際通貨研究所ミニウェビナー

2023年9月28日

脱炭素とエネルギー安全保障 日本と中東の関係を考える

JIME-IEE
JAPAN

一般財団法人
日本エネルギー経済研究所
中東研究センター

理事・センター長 Board Member / Director

保坂修司 HOSAKA Shuji

2020年代の中東におけるおもな出来事

- 新型コロナウイルスのパンデミック
 - 経済低迷 ⇒ 沈静化 ⇒ 国境再開 ⇒ 経済再活性化
- 米国の影響力が減退、中国の躍進
- ロシアのウクライナ侵攻
 - ⇒ エネルギー・食料危機
- アブラハム合意の拡大
- アルジェリア・モロッコ断交
- イラン核合意（JCPOA）再建不調
 - 米イラン囚人交換・資産凍結解除
- イラン全土で抗議デモ
- カタールでFIFAワールドカップ開催
- 通貨危機：トルコ、エジプト、レバノン、イラン等で自国通貨が軒並み大幅下落
 - レバノンの破綻国家化
- アフガニスタン・ターリバーン政権
- 為政者の高齢化
- リビア内乱の継続
- チュニジアの独裁化
- シリア内乱の行方⇒アラブ連盟復帰
- 難民問題
- イスラエルで極右政権・パレスチナとの衝突激化・司法改革
- イラン・サウジアラビア国交回復
- イエメン内乱の行方
 - フーシー派使節がサウジアラビア訪問
- スーダンで武力衝突
- トルコ総選挙で現職大統領・与党勝利
 - トルコ南部での大地震
- 湾岸諸国のビジョンの行方
- 気候変動と脱炭素
 - COP27エジプト、COP28UAE
- モロッコ大地震、リビア洪水

国が決定する貢献（Nationally Determined Contribution）

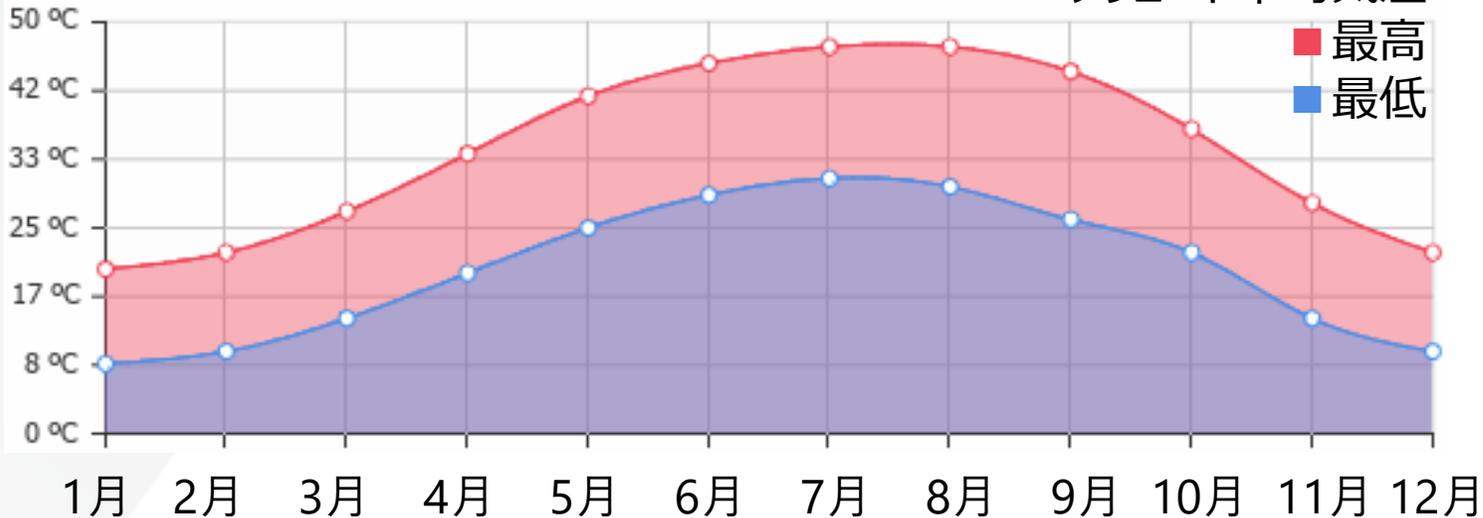
国名	CN宣言	GHG削減目標	提出
アフガニスタン	2050	0 to 14%	2016
アルジェリア		7%/2030	2016
バハレーン	2060		2021
エジプト		80.7mt/2030	2023 (3)
イラン		4%/2030	
イラク		15%/2030	2021
イスラエル	2050	27%/2030	2021
ヨルダン		31%/2030	2021 (2)
クウェート	2060	7.4%/2035	2021
レバノン	2050	31%/2030	2021
リビア			

国名	CN宣言	GHG削減目標	提出
モロッコ		45.5%/2030	2021
オマーン	2050	7%/2030	2021 (2)
カタール	2050	25%/2030	2021 (2)
サウジアラビア	2060	278mt/2030	2021 (2)
パレスチナ		26.6%/2040	2021 (2)
スーダン	2050	27.1mt/2030	2022 (3)
シリア			2018
チュニジア	2050	45%/2030	2021 (2)
トルコ	2053	21%/2030	2023
UAE	2050	40%/2030	2023 (3)
イエメン	2050	14%/2030	2015

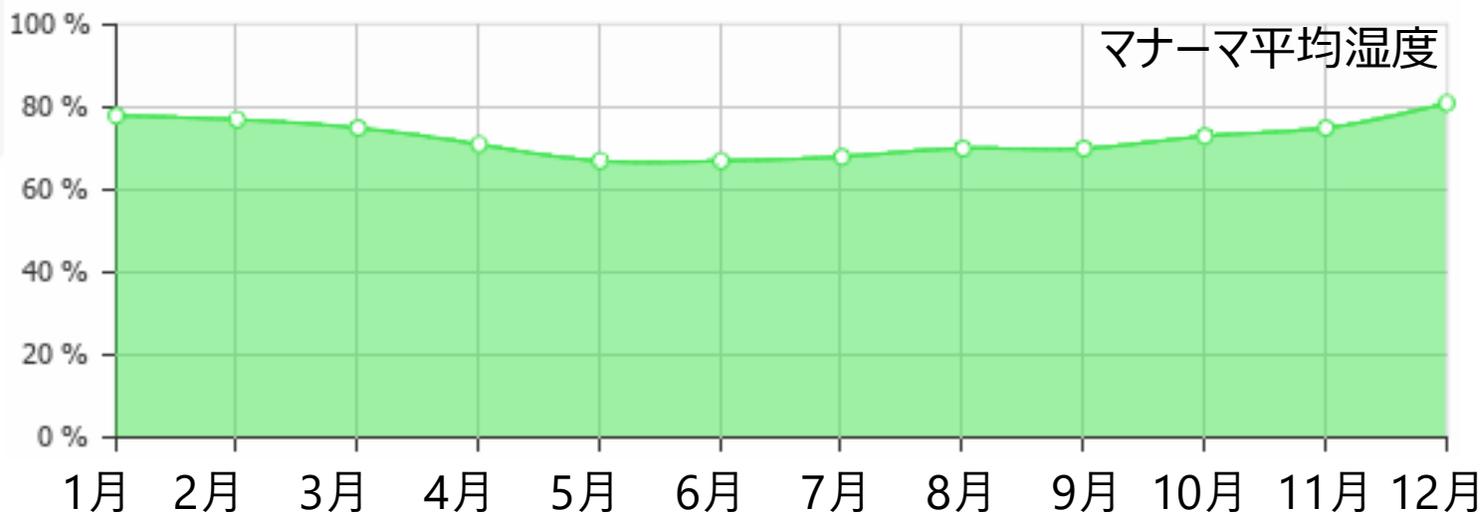
地球温暖化と中東：切実な影響

いわゆる「サンベルト」

クウェート平均気温



マナーマ平均湿度



月	平均	計
1月	8	245
2月	8.5	235
3月	8	250
4月	9.5	280
5月	11	340
6月	11	335
7月	10	315
8月	10	310
9月	10	300
10月	10	305
11月	9.5	285
12月	8.5	260
年	9.5	3465

参考：東京で年1927時間

- 中東は温暖化の影響を一番強く受ける地域の一つ
- さらに高温多湿に
 - このままでは夏場に60度を超えるところも。
 - 冷房代（+人口増）でエネルギー消費増大 → 夏期の停電は地獄
 - 巡礼など宗教儀式への影響（とくに屋外で行う儀礼）
 - 山火事が多発（アルジェリア、トルコ）
- 雨量の増加 集中豪雨の多発
 - 沙漠で洪水
 - 2023年9月のリビアではダムの決壊により多数の犠牲者
 - 他方で旱魃も。イラク南部では沼沢地が干上がり、イラン・アフガニスタン国境では水問題をめぐり対立発生。
- 海面水位の上昇
 - 島国のバハレーンや沿岸の小国（クウェート、UAE、カタール等）では領土縮小の危機

- 石油・天然ガス収入に依存する中東産油国も脱炭素にシフト
 - 世界的な脱炭素の流れで、石油の生産は減少（新興国の需要拡大とのバランス）
 - 産油国はかなり前から石油に依存しない経済制度構築のため改革（ビジョン）を開始
 - 脱炭素とは本来、無関係だったが、石油依存体質からの脱却を目指すという意味で、脱炭素政策とビジョンの連関が強化されている
 - エネルギー・トランジションとしての天然ガスではカタルが圧倒的優位
 - 世界第2位の天然ガス埋蔵量を誇るイランの潜在力
 - 脱炭素のシフトには国によって温度差（UAEとサウジアラビア等がリード）
- 脱炭素を進めるにも資金が必要であり、その資金を得るためには、化石燃料を売らねばならないという矛盾
 - ウクライナ戦争によるエネルギー危機が化石燃料にとっては追い風
 - 石油の顧客としての中国、産油産ガスの同業者としてのロシア
 - アフリカ・インド・東南アジア
- イスラームは地球温暖化をどう見るか？

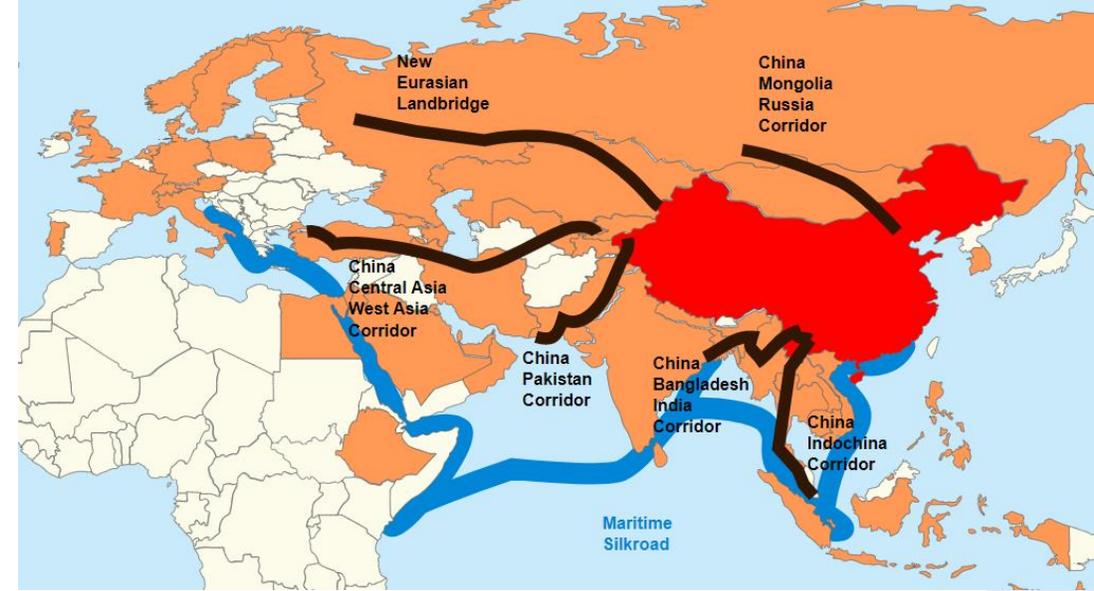
中国の一带一路

2013年～

- シルクロード経済ベルト (一帯)
- 21世紀海洋シルクロード (一路)

2014年～

- 中国の「特色ある大国外交」
- アジア開発投資銀行AIIB
 - シリア・イエメン・パレスチナ以外の全中東諸国
 - アジア開発銀行ADBはトルコのみ。
- 上海協力機構 (イラン、対話パートナー：トルコ、サウジアラビア、カタール、エジプト、UAE、クウェート、バハレーン、オブザーバー：アフガニスタン)
- BRICS (エジプト、イラン、サウジアラビア、UAE加盟決定。アルジェリア、バハレーンも申請中。加盟意思表示をした国も多数)
- マスク外交、ワクチン外交、パンダ外交
- 習近平「上海石油天然ガス取引所を石油・ガス貿易の人民元建て決済におけるプラットフォームとしてフル活用する」 (2022年12月)
 - UAEから6万5千トンのLNGを人民元で輸入 (2023年3月)。
- 権威主義体制としての中東との親和性



Wikipediaより

中国の海外投資（2023年）：2013年との比較

順位	国名	変化	順位	国名	変化
1	シンガポール	▲	23	イスラエル	▲
2	インドネシア	▲	26	ドイツ	▼
3	マレーシア	▲	28	米国	▼
4	香港	▼	30	フランス	▼
5	タイ	▲	33	モロッコ	▲
6	ベトナム	▲	36	日本	▼
7	スイス	-	38	アルジェリア	▲
8	UAE	▲	43	イラン	▲
9	サウジアラビア	▲	60	英国	▼
11	インド	▲	65	イタリア	▼
15	ロシア	▼	72	トルコ	▼
16	カタール	▲	75	台湾	▼
17	エジプト	▲	78	イラク	na
20	韓国	▲			

- 米国の中東離れ。人権、安保ただ乗り論、シェール開発等で中東エネルギーの重要性が低下。
 - オバマ政権のアジアピボット戦略
 - JCPOAで湾岸アラブ諸国の要請を無視（弾道ミサイル等）。
 - アラブの春で新米国を含む権威主義体制が崩壊、米国は介入せず。
 - シリア・アサド政権による化学兵器の使用。米国は介入の約束を反故に。
 - サウジアラビア東部州の石油施設への攻撃（イエメン・フーシー派、イラン？）でも米国は軍事介入なし。
- バイデン大統領（2021年1月～）「サウジアラビアをパーリアにする」選挙公約
 - 2022年5月、バーバラ・リーフ近東担当国務次官補任命（2021年1月以来）
 - 2023年4月、マイケル・ラトニー駐サウジアラビア大使（2021年1月以来）
 - 2022年7月のバイデン大統領のサウジアラビア訪問。
 - ハーショグジー事件（2018年）の事実上の幕引き
 - 米国側として相当の妥協もあったが、サウジ側に期待していた点について満額回答にいたらず。
 - 司法改革等をめぐってイスラエルとの関係にすきま風。 極右勢力への忖度で、米国の反対を押し切り入植地拡大。パレスチナとの衝突激化。
 - イスラエルとサウジアラビアの国交正常化の仲介。

日本は中東にどう関わっていくべきか？

- 日本は2050年カーボンニュートラルの目標を掲げたが、2050年までに化石燃料の使用をすべてやめるわけではない。減少したとはいえ、その後も化石燃料は利用しつづける。
 - そのとき、誰が化石燃料を日本に供給できるか？中国やインドといったライバルに買い負けしないようにできるか？
- 中東は国際的紛争の震源の一つであり、世界の不安定化の要因。世界が混乱すれば、日本の経済にもネガティブな影響。日本が中東の紛争を解決するのに貢献する価値はある。
- 湾岸産油国の脱石油依存に向けた取り組み。
 - 日本のカーボンニュートラル政策との連携の可能性。
 - 水素、アンモニア（グリーン・ブルーともに中東は優位に立てる）
 - CCS/CCUS、炭素循環経済
 - 小型モジュール炉SMR
- いかにして中東における日本のプレゼンスを維持できるか？
 - すでに経済的プレゼンスは大幅に縮小。
 - 日本の優位性を利用する。
 - われわれの中東理解は十分か？（アラビア石油の利権更新の失敗）

7月16日～19日 岸田首相のサウジアラビア、UAE、カタール訪問

9月3日～9月7日 林外相のヨルダン・エジプト・サウジアラビア訪問

9月3日～5日 西村経産相のイスラエル・パレスチナ・トルコ訪問

9月9日 G20首脳会議出席のためインドを訪問した岸田首相はサウジアラビアのムハンマド皇太子と会談。